

研修並びに行政視察報告

(会派 誠和クラブ)

≪研修・視察目的≫

・埼玉県朝霞市

これまでアナログ管理されていた都市計画情報や道路台帳等をデジタル化し、全市域を対象としたベースレジストリの基盤となる共通基盤データの作成。また、災害リスク情報等と併せて一元的に管理・オープンデータ化により、市民・事業者等がデータの利活用しやすい環境整備の取り組み等を調査・研究し参考にするため。

・埼玉県春日部市観光協会

お寺や蔵づくりの建物、古民家や風情のある町並みが今なお多く残り、近年「歴史まちあるき」をする人が増えている春日部駅東口周辺の状況においてスタートした「かすかべ景観再生プロジェクト」。その一環の「日光道中粕壁宿」をテーマとしたシャッターアートの取り組み等を調査・研究し参考にするため。

・埼玉県八潮市

市民が安全・安心して暮らせる良好な街並みづくりを目標に掲げ、空き家に限らず、現に使用している建築物で適切な管理が行われていないものについても対象にした「八潮市まちなかの景観と空き家等対策計画」により、貴重な自然環境を保全・活用するとともに品格を感じられる自然と都市的景観が調和したまちづくりの取り組み等を調査・研究し参考にするため。

≪研修・視察概要一覧≫

研修・視察 月 日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
1 月 17 日 (水)	埼玉県朝霞市	朝霞市役所	I C T技術を活用した地図情報公開サービス事業について
1 月 18 日 (木)	埼玉県春日部市観光協会	春日部市観光協会 シャッターアート	シャッターアート「日光道中粕壁宿」の取り組みについて
1 月 19 日 (金)	埼玉県八潮市	八潮市役所	まちなかの景観と空き家対策について

≪研修・視察概要報告≫

1. 埼玉県朝霞市 人口 143,091 人、面積 18.34 km²

- 説明者 朝霞市総務部デジタル推進課長、都市建設部まちづくり推進課長ほか職員 3 名
- 説明概要 I C T技術を活用した地図情報公開サービス事業について

〈概要〉

1) 事業概要

統合型GISの構築 都市計画情報、道路台帳、ハザードマップ等

公開型GISの構築 ホームページ公開、都市計画情報、道路台帳等の情報掲載

2) 事業の実施によって解決を図る課題及び実現したい地域像

市保有データの電子化・オープン化の遅れから、紙媒体による対面対応が必要で、利用者、職員双方にとって煩雑。デジタル技術の活用により、業務の効率化を図り、住民福祉・市民サービスの向上を目指す。

3) サービス内容

既存のインフラ情報の地図データ化。

マルチブラウザ、マルチデバイスに

対応した公開型GISの導入。

4) 地域独自の創意工夫

地域関係者を委員とする既存の会議体の活用。

オープンデータ化の推進。

5) K P I (重要業績評価指標)

アウトプット指標 (活動指標) とアウトカム指標 (成果指標)。

6) 庁内推進体制

副市長 事業実施責任者

デジタル推進課 事業全体のマネジメント

まちづくり推進課 地図基盤の整備・更新、事業者との調整

庁内関連部署 地図情報 (レイヤー) の作成・更新、保有データの電子化

7) 事業推進体制

朝霞市 事業計画立案、事業全般の管理・統括

GIS構築・運用事業者 システム設計、利活用支援、ノウハウの提供

市民及び民間事業者 サービスの利用

8) P D C A実施体制

既存の外部評価組織の活用 (朝霞市外部評価委員会)

庁内アンケート実施 (利活用意向、利用満足度、事務効率化の状況等)

利用者アンケート実施 (利用満足度等)



〈考察〉

・作野幸憲

朝霞市ではデジタル田園都市国家構想交付金を使って、「ICT 技術を活用した地図情報公開サービス事業」を現在構築中で、現在今年3月の本格運用に向け、最終準備を進められていました。まだ試験運用の段階でしたが、実際の画面を見せてもらいながら、説明を受けました。実際の画面を見ていると、地図上に様々な地図情報データ（レイヤー）を重ねることによって、市民や事業者等が様々なデータを利活用でき、また窓口閲覧等における問い合わせ時間や来庁機会の利用者負担軽減にも繋がると感じました。特に災害時には被災箇所の情報や避難所開設状況などを地図上に可視化できるなどメリットは非常に多いと思いました。

安来市はオープンデータについては県内では先進的な取り組みをしていて、現在117のオープンデータを県のカatalogサイトに公開しています。私は以前よりオープンデータを活用したWebサイトの構築を市に提言したこともありますので、この情報をもっと活用しなければ「もったいない」と思います。安来市でも是非ともデジタル化の一環としてこのような事業を展開していただきたいと強く思います。

・石倉刻夷

市議会、岡崎和広議長の歓迎の挨拶をいただき、標記事業の担当部局、総務部デジタル推進課の職員の方と、まちづくり推進課の職員の方に、資料により詳細な説明を受けた。事前の質問事項にも回答いただいた。



R4年度に、複数の課よりGIS要望の意向により、R5年度採択、提案事業者5社により、プロポーザルにて事業選定、契約そして、R6年3月には運用開始予定となっていた。都市計画情報等、各情報を一元的に管理し、オープンデータ化することで、市民、事業者等の利活用しやすい環境を整備することで、市民サービスの向上が期待出来ると感じた。

・三島静夫

行政区域の地図に様々なデータを反映させるシステム（GIS）の導入とその情報をネット上で公開することにより、庁舎内での各種業務の効率化、市民の負担軽減を図っていく取り組みを伺った。

まだ、データ化されていない情報を電子化する作業が多く残っているとのことであったが、今後作業を進め様々な場面で業務のさらなる効率化、市民サービスの向上を目指していかれるとのことであった。

安来市においては多くのデータがすでに電子化されているが一元的なまとまりがなく、

ネット上での情報公開も少ない状況である。今後災害時や都市計画など市民や事業者に行政情報を効果的に伝える取り組みを行う必要性を感じた。

・清水保生

これまで紙ベースでの各種行政データを地図情報システムに重ね合わせることで、行政や市民、事業者等の利活用の効率性を高める当該事業の効果はかなり高いと思われる。

公開型G I Cにおける公開地図情報データ数の目標は、2023年度20件、2024年度30件、2025年度50件となっている。

閲覧件数の目標は、2024年度5,000件、2025年度7,000件である。これにより、地図情報に係る窓口対応件数は、2024年度4,800件、2025年度3,200件と減少が見込まれており、職員の事務負担の軽減に繋がると推計されている。

現在、朝霞市は本格稼働に向けて準備段階であるが、今後のやり方次第でシステムの出来上がりに大きく影響すると思われる。

本市も多くの行政データがオープン化されているが、これらの情報を統合型G I Cに集約すれば、各種データを活用し易い形で効率的に使用することができると思う。

地図上での定点間の距離や定点で囲まれた範囲の面積計算等も出来、大変べんりである。

本市のデータとして、グーグルマップやゼンリンの地図情報に、国土調査図、上下水道配管図、道路台帳情報、公共施設の位置情報、カーブミラー・防犯灯・街路灯の設置個所、小学校通学路、防災マップ等多くの情報を入れ込むことで、誰もが使い易いシステム構築が望める。

朝霞市での導入経費は、70,000千円であり、本市でも十分取り組める範囲である。今後検討していく価値は十分あると感じた。

2. 埼玉県春日部市観光協会

●説明者 春日部市観光協会事務局長ほか職員2名

(現地調査) 春日部駅東口都市近代化推進協議会会長

●説明概要 シャッターアート「日光道中粕壁宿」の取り組みについて

〈概要〉

1) 事業取り組みの経緯

春日部市の歴史

江戸時代春日部駅東口一帯は日光街道の宿場町

平成22年度春日部商工会議所が主体となって

「アートボランティア事業」を実施

古利根公園橋脇公衆トイレ



商店のウォールアート・シャッターアートも展開

その後34箇所のシャッターアート「日光道中粕壁宿」が完成

2) 事業内容

基本テーマは、日光道中「粕壁宿」、「まちかど歴史絵巻」

製作費の3分に1は、景観再生プロジェクトにより県が支援

維持管理費は商店負担。

3) 事業効果

まちの活性化への意識改革 店の活性化、まちの活性化、落書き防止の効果あり

地域内交流の活性化 歴史あるまちを地域住民が再認識

4) 今後の取り組み

観光ボランティアによるシャッターアートまち歩きツアーの継続

若い店主発案による「街キャラカード」を用いた春日部の魅力発信

粕壁宿の歴史・文化を景観アートとして表現し賑わいの再生を図る

《考 察》

・作野幸憲

かつて旧日光街道の粕壁宿として栄えた春日部駅東口商店会連合会のみなさんが、古い建物や面影を大切に、景観アップと賑わいを取り戻そうと取り組んでこられました。

平成22年度の春日部商工会議所が主体となって行なわれた「アートボランティア事業」から展開が始まり、23年度には同商店街連合会が春日部市の支援を受け事業が継続されました。成功のカギは当時の連合会の会長さんが店舗を1軒1軒回り、協力を求められたことだと思います。最初は10箇所でしたが、徐々に増え34箇所までになったそうです。

実際に観光協会の方に案内してもらい、シャッターアートを見て回りましたが、アートのテーマ「日光道中 粕壁宿」に沿って描かれた絵は、1枚1枚に個性があり、どれも素晴らしいものでした。描いた方は市内業者が呼んできた学生ボランティアの皆さんで、店舗や場所に合わせたアートもたくさんありました。

今後については、当時かかわったメンバーの高齢化や維持管理にかかる経費など課題はまだまだあるようですが、若い経営者に引き継げるよう努力をしていきたいとのことでした。

安来市内もシャッターが閉まった店舗が多くありますので、商店街の景観に配慮しながら安来の歴史を描くような取り組みは、まちの活性化の施策としてあっても良いと思います。

・石倉刻夷

春日部市観光協会今泉将一事務局長、市より出向の鈴木涼香主査並びに、金子康二主査より、資料により詳細な説明を受けた。事前の質問事項にも回答いただいた。

商店会連合会を中心に「景観再生事業」としてスタートし、地域住民のコンセンサスが必要とありました。製作費の支援と費用負担、維持管理、事業の効果等が精査されているが、今後の取り組みとして、現状の課題が戦略的に進めることが重要と考えられていました。現場視察の時、シャッターアートの発起人、春日部駅東口近代化推進協議会、市川弘会長に面談し、地域活性化、賑わい創出の思いを伺いました。

・三島静夫

商店街のシャッターアートは各店舗に関連した絵が描かれており、夜間と早朝にしか全容を拝見することが出来ないのが残念であったが、朝晩通勤や通学をし、昼間の店舗を認識できない方々への広告となり、誘客効果があったことには関心をした。

この度の視察で私が注目したのはこの事業の補助金申請の内容である。

今事業は春日部市、民間企業、商店会連合会が連携しておこなわれた。

シャッターアートを描いたのは美大生であるが、県の補助金申請を民間企業（ビッグアート）がウォールアートに興味のある学生のインターンとして教育事業として申請をされたことである。商店街の活性化に教育事業を持ってくるという発想に驚かされた。

文化芸術ではお腹が満たされないが、まちが華やぐことにより日々の生活に活力を与えることができる。安来市にもぜひ取り入れたい事業であると感じた。



・清水保生

シャッターアート「日光道中粕壁宿」の取り組みは、平成22年度に春日部市商工会議所が主体となって、「専門学生によるアートボランティア事業」として、古利根公園橋脇の公衆トイレや商店のウォールアート・シャッターアートなどの展開から始まった。

平成23年度には、春日部駅東口商店会連合会が春日部市の支援を受け事業が継承され、春日部駅東口商店会連合会、春日部駅東口都市近代化推進協議会、春日部市、各商店の協力賛同のもと、「かすかべ景観再生事業」の一環としてスタートしている。

当時の春日部駅東口商店会連合会会長が店舗を一軒一軒回り、事業内容を説明し事業への理解を求められたそうであるが、各店舗の負担もあり、すぐには賛同を得られなかったようであるが、実際に完成したアートを目にして、「まちのためならやってみよう」という店舗が徐々に増え、34箇所のシャッターアート「日光道中粕壁宿」の完成を見るに至っている。

アートのテーマは、日光道中粕壁宿を基本とし、当時の歴史や時代風景をシャッターに描いた「まちかど歴史絵巻」によって、宿場町であったことやそれぞれの店の物語が時代を超えて引き継がれている。

今後、傷んだアートの修復費の捻出は課題であるが、美しいアートに落書きする人はいないようで、シャッターアートが落書き防止の役割を果たしているとのこと。

現在、観光ボランティアガイドが早朝にまち歩きツアーを実施し、アートの紹介をしているが、今後もやる気のある方（団体）やアイデアを持っている方々と密に連携を図り、多方面からこの事業を盛り上げ、地域活性化や賑わいの創出に繋げていきたいとのことである。

街並み景観保全、観光振興という面で、こうした産官学、官民連携した取り組みは、安来市においても大いに参考すべきものと感じた。

3. 埼玉県八潮市 人口 92,527 人、面積 18.02 km²

●説明者 八潮市都市整備部都市計画課長ほか職員 2 名

●説明概要 まちの景観と空き家対策について

〈概要〉

1) まちの景観と空き家等対策計画

市民が安全・安心して暮らせる良好な街並みづくりを目標に掲げ、空き家に限らず、現に使用している建築物で適切な管理が行われていないものについても対策の対象とし、これらの建築物等に関する対策を総合的・計画的に推進するために本計画を策定。まちの景観という視点から都市計画課を主担当課とする。

2) 空き家等の推移

令和元年度 311 件、2 年度 273 件、3 年度 253 件、4 年度 220 件

減少傾向の理由として、都内との隣接している地域特性が考えられる。

空き家所有者に対する具体的な指導 通知文の送付、直接解消の指導

所有者同意のもとでの緊急安全措置の実施

3) まちの景観と空き家対策

予防対策 広報への掲載、出前講座、空き家等に関するデータベースの整備

活用・流通対策 関係団体との協定締結、意見交換会

管理不全対策 条例に基づく審議会、庁内検討会議

4) 空き家計画以外の取り組み

高齢者ふれあいの家支援事業 高齢者交流の場の開設・運営費の一部を助成
相続人が耐震リフォーム・取壊し後に譲渡した場合の 3,000 万円特別控除

5) 景観まちづくりへの取り組み

八潮らしい街並み景観・分譲住宅認定制度 「やしお家づくりデザインマナーブック」
のデザイン要素を踏まえて建築された新築戸建て分譲住宅を市が認定する。

6) 八潮市みんなで作る美しいまちづくり条例

参加と協働のまちづくり

美しい街並みづくり

環境と緑のまちづくり

秩序あるまちづくり



〈考 察〉

・作野幸憲

八潮市では、平成 28 年 2 月に「八潮市まちの景観と空き家等対策計画」(令和 4 年度末現在の空き家数 220 件)を策定されました。他の自治体との大きな違う大きな特徴は、法に定めがある空き家等への対策以外に、まちの景観という視点(担当:都市計画課)から、いわゆる「老朽建設物等・ゴミ屋敷」も対策対象としているところです。

八潮市の具体的な指導としては、空き家等の情報提供や苦情があった場合には、①職員による現地確認②空き家等所有者に対し通知文を送付③連絡が取れれば直接解消の指導をされておられました。また 5 年ごとの実態調査はもとより、毎年度末に担当課の職員による現地調査を実施し、空き家の把握に努めておられました。

また協定団体の中には、他ではあまり見られない社会福祉協議会やシルバー人材センターなどとも協定しておられ、社会福祉の面や空き家等の管理や庭木の剪定・除草などの簡易作業を受け持っておられました。今後は空き家対策を総合的に進める体制として、(仮称)まちづくりセンター等の創設も検討中ということでした。

八潮市では予防の観点から「老朽建設物等・ゴミ屋敷」も対象に対策を進めておられますが、生活環境は大きく違いますが、安来市でも空き家を極力増やさないための予防対策も考えてもいい時期に来ているのではないかと思います。

・石倉刻夷

市議会福野未知留議長より歓迎の挨拶を受けて、市の山口雅則都市整備部都市計画課長と担当職員 2 名により、資料により詳細な説明を受けた。事前の 8 項目にわたる質問にも適切に回答いただいた。

市の面積が 18 km²と小さく、東京都に隣接し、つくばエクスプレス開通から人口が増えて、

市の景観と一方では空き家対策が求められ、計画の期間は平成28年から10年間の期間で取り組まれている。R元年からR4年にかけて空き家が減少傾向にあることに驚いた。それは、東京都に隣接している特性が考えられるとありました。一方で、土地区画整備事業によるまちづくりが進められ、11事業地区の内、6地区が終了し40%の実施率となっていた。土地単価は坪単価60万円～150万円であった。



・三島静夫

八潮市は首都圏のベッドタウンとして空き家が売りに出ればすぐに売ってしまうという大変恵まれた土地柄であるが、安来市の空き家対策において課題となっている、空き家を放置する所有者が多く、空き家を管理することへの意識づけに苦慮されておられるという実情がある。

この課題解決のために空き家問題は地域の問題として捉え地元の関係団体と連携をし、また、空き家及び特定居住物件等の所有者等への問題に対し、建築物関連の関係団体と市が相互に連携・協力し総合的にサポートをする取り組みをおこなっておられることを伺った。

また、建築物による景観に関しては八潮市らしい街並みづくりのために「やしお家づくりデザインマナーブック」のデザイン要素を踏まえて建築された住宅を市が独自に認定し住宅に付加価値を持たせる取り組みをおこなっておられることを伺った。

安来市でもやすぎらしい街並みを生かした空き家対策、定住対策に取り組むことの必要性を感じた。

・清水保生

八潮市まちの景観と空家等対策計画については、空き家に限らず、現に使用している建築物で適切な管理が行われていないものについても対策の対象とし、これらの建築物等に関する対策を総合的・計画的に推進することとし、まちの景観という視点から都市計画課が主担当課となって取り組んでいる。企画期間平成28年度から令和7年度までとなっている。

令和元年度の実施された市内空き家等実態調査では、311件の空き家が存在した。空き家の確認方法は、外観調査と水道閉栓調査によるとのこと。

この空き家の推移であるが、令和2年度は273件、令和3年度は253件、令和4年度は220件と、年々数が減少している。

この理由としては、都内と隣接しているという地域特性があると見られる。空き家の活用・流通対策として、空き家バンクが設置されているが、登録実績は無いそうである。

安来市の場合、バンク登録し情報公開してもなかなか買い手、利用者が見つからない状況であるが、八潮市ではバンク登録するまでの間に買い手が見つかるという状況であり、自治体の立地環境が大きく左右する現実に驚く次第である。

また、50年、100年先を見据え、地域に根ざした八潮らしい街並みづくりを推進するため、「やしお家づくりデザイナーブック」のデザイン要素を踏まえて新築される戸建て分譲住宅を市が認定する「八潮らしい街並み景観・分譲住宅認定制度」は、景観行政に配慮した制度で、安来市においても検討していく価値は十分あると感じた。

以上